

だんらん空間の雰囲気に影響を及ぼす諸要因に関する調査研究
 — 第1報 空間形状と雰囲気の主観的評価の関わりについて —
 奈良女大家政 ○渡辺泉子 河野安美 國嶋道子 磯田憲生 梁瀬彦子

目的 本研究では、住生活における中心の場であるだんらん空間を取りあげ、空間の形状、インテリア構成要素の実態、主婦のだんらんに対する意識を把握するとともに、それらの諸要因が空間の雰囲気に関与する影響を明らかにし、より良いだんらん空間のあり方をさぐる。本報では、空間の形状と雰囲気との関わりについて報告する。

方法 対象地域、調査期間は前報に示す河野らの「主婦の生活意識とだんらん空間のあり方に関する研究」と同じ。対象住戸はLDKの形状別に5タイプ。配布数445戸、回収率88%。主な内容は、1)だんらんに対する意識及び実態 2)だんらん空間に対する意識及び実態 3)雰囲気の主観的評価。なお、雰囲気評価はSD法で行った。

結果 だんらん空間のしつらいは、雰囲気より機能性を、家具はデザインよりも使い勝手を重視する主婦が過半数であるが、自己流のしつらいを楽しむために、インテリアショップに出かけたり、室内装飾に工夫をこらしている傾向がある。雰囲気をだんらんの行われる場所別に比較すると、リビングで行われている場合は、ダイニングの場合よりも相対的に評価が良く、特に、「安らぎのある」「くつろいだ」等の評価に差が見られる。現実と理想とするだんらん空間別に因子分析を行うと、両者とも居間の雰囲気評価に関する実験結果¹⁾と同様に、第Ⅰ因子として活動性の因子が抽出された。又、「現実」では第Ⅳ、第Ⅴ因子として抽出された「家族本位の—来客本位の」、「どっしりした—軽やかな」のような内面の欲求を表す因子が「理想」において優位にあらわれた。

1)渡辺ら、「室内視環境要素の心理的影響に関する実験的研究」(和)日本家政学会関西支部第1回研究発表会、1982年5月、奈良。